

# 重文・板絵著色神馬図と金銅聖観音像懸仏 (天童市・若松寺)

# ふるさとの 文化財

8

天童市の鈴立山若松寺が所蔵する国指定重要文化財(重文)の板絵著色神馬図(いたえぢやくしょくじんめず)と、金銅聖観音像懸仏(こんどうしようかんのんぞうかけぼとけ)の2件は、同じく重文である若松寺觀音堂の内陣の壁に掲げられている。

板絵著色神馬図は、横板5枚をつなぎ合わせて奉納額に仕立てたもので、縦163センチ、横182・5センチ。黒い鳥帽子(えぼし)が描き、自身の亡くなつた妻の菩提(ぼだい)を弔うため、室町時代末期の1563(永禄6)年に奉納した、ということが墨書きされている。

郷目は、寒河江一帯に勢力を及ぼした豪族・大江氏の家臣

し)をかぶって白い装束を着た神人(じんにん)が飾り馬を懸命に引いている姿(すがた)という絵柄が現存するが、この神馬図は、緻密(ちみつ)な写生を基にした傑作として評価されている。

馬を引く神人は郷目自身で、馬の背に置いた打ち掛けを奥さん(おとこ)は解説する。

一方の「懸仏」は、銅製の円板の上に神仏の姿や梵字(ぼんじ)を線刻したり仏像などを浮き彫りしたもので、神仏習合の考えから生まれた。鎌倉・室町時代にかけて盛んに行われ、御正体(みょうたい)とも称され礼拝された。

若松寺が所蔵する重文の金銅聖観音像は、直径75・5センチ、重さ60キロ。円形の鏡板は銅鑄製で、聖観音像は丸彫りに近い厚

で、武士ながら画人でもあつた人物。画面いっぱいの人と馬を描いた神馬図は躍動感にあふれている。郷目の作品は20点余りが現存するが、この神馬図は、詩情の趣を醸す絵を得意とした郷目の、画才の一端がよく表されている。郷目の作品は20点余りが現存するが、この神馬図は、詩情の趣を醸す絵を得意とした郷目の、画才の一端がよく表された傑作として評価されている。

(天童市)の大檀那(だんな)藤原真綱が鎌倉時代中期の1263(弘長3)年に奉納したこ

とが分かる。

昔は内陣と外陣を分ける壁面の中央上部、須弥壇(しゆみだん)の前の外陣上部に掲げられていた。大正時代に撮られた写真にその様子が写っているとい

う。「本尊の聖観音像は行基菩薩(ぼさつ)の手彫りと伝わり、他見を永久に禁止された秘仏なたようだ」と氏家住職。「板絵著色神馬図と金銅聖観音像懸仏は内陣にあり、特に神馬図は外陣から見えない位置に掲げているので、希望者にはできるだけ見てもらっている。どうぞ遠慮なく申し出てください」と話していた。



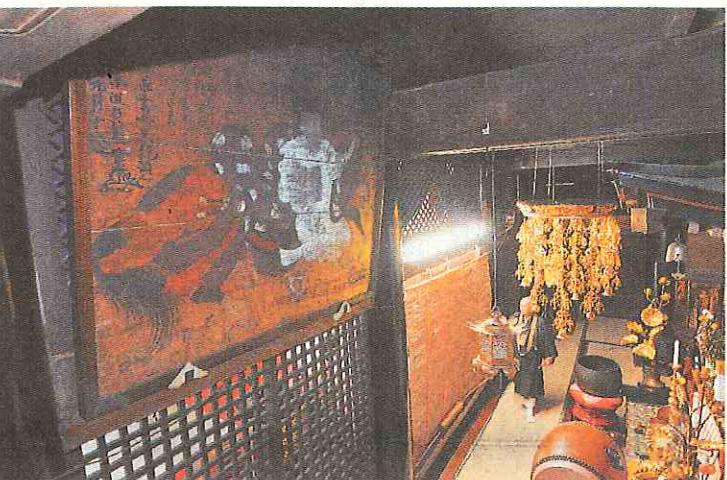
重文の板絵著色神馬図。郷目右京進貞繁が60歳すぎに描いたと推定されている



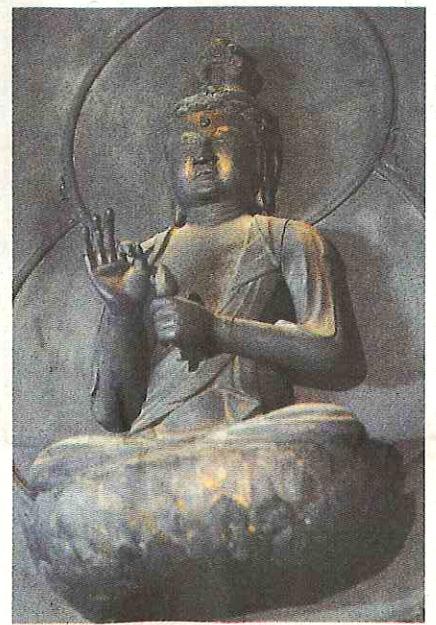
重文の金銅聖観音像懸仏。金メッキの名残がみられる

室町末期奉納  
「神馬図」

## あふれる躍動感



神馬図は内陣の格子戸の上部に掲げられており、外陣からは見えない



鏡板に立体的な像が付けられている

鎌倉中期奉納  
「懸仏」 大きく美しく

**メモ**  
境内巡回時間は午前7時～午後6時。巡回料は無料。無料駐車場あり。車は山形自動車道・山形北ICから

約20分、JR天童駅から約15分。天童市山元2205の1。電話023(653)4138。ホームページhttp://www.wakamatu-kannon.jp/